

令和元年度小松市立第一小学校 学校評価（中間評価）

めざす児童生徒像

子どもの成長に出会える学校づくり ① 「い いきいきと学ぶ子（学力） ・ ・ ・主体的に学習に取り組み、達成感や意欲をさらなる学びにつなげる姿 ② 「ち 力を合わせる子（人間関係力） ・ ・ ・自他を尊重し、互いに認め合い協働してよりよく生きようとする姿 ③ 「の のびのびと育つ子（健康・体力） ・ ・ ・健康や安全について正しく判断し、自他の命を大切にす姿 ④ 「こ こまつを愛する子（郷土愛） ・ ・ ・学校やふるさとを愛し、大切にすると共に、未来に向かってチャレンジしようとする姿
--

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定） 子どもの成長に出会える学校づくり		①②③④の項目について、肯定的に答えている職員の割合を90%以上にする。	① 認め合い互いに学び合う温かい学級づくりを推進し、児童の自己有用感や共感的人間関係を育んでいる。	100.0				目標指標①～④の全ての項目で、90%以上を達成しており、「子どもの成長に出会える学校づくり」に向けての職員の意識は高い。全ての項目でA評価（あてはまる）とB評価「だいたいあてはまる」がほぼ同数であり、今後はA評価の増加（質の向上）をめざしたい。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」についても肯定的評価は高いが、教師の評価と児童の評価に5.4%の差があり、意識のずれが見られる。	今後も学校経営ビジョン、「子どもの成長に出会える学校づくり」を強く意識し、日々実践していく。児童にタイミングよく、分かりやすい言葉で評価していくことで、「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」に関しての職員と児童の意識のずれを無くしていく。
			② 特別活動や道徳の推進を通して、児童の成長が見える魅力ある学級づくりを行い、児童の意欲の向上を図っている。	96.8					
			③ 研究主任を中心とした組織的・継続的な研修を推進し、学校全体の学びの質の向上を図っている。	100.0					
			④ 若手教員早期育成プログラムを活用し、チームの一員として学校運営に参画し、互いに認め合い、助け合うとともに高め合う教師集団となっている。	97.0					
			⑤ 先生はあなたのよいところを認めてくれる。	100.0	94.6	97.5	-5.4		
			集計						
石川県共通 業務の改善	働き方	①②③④の項目について、肯定的に答えている職員の割合を90%以上にする。	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	81.8			目標指標①③④について、目標に到達していない。①について、一部の校務分掌の行事活動等で、業務負担の軽減を感じている職員がいる。④について、指導方法等について共通理解し、共通実践に至らない活動もあった。⑤については、職員の固定化傾向が見られる。	校務分掌内で、また、学校全体で組織的に業務に取り組んでいくことで、平準化を図っていく。風通しのよい職員室、何でも言い合えるような職員関係を構築できるように、学校全体の共通理解や、学年会の充実を図るように努める。定時退校日や最終退校時間を設定し、効率的に業務に取り組むことで時間外勤務の時間を減らす。	
			② 主任等を中心に組織的、機能的に業務に取り組んでいる。	93.9					
			③ 校務関係資料や教材等を共有化し、だれもが利用しやすいように整理している。	87.9					
			④ 職員間の関係も良く、働きやすい職場である。	81.8					
			⑤ 時間外の勤務時間を月80時間以内にする。（超えた人数）中間4～6月のべ人数	24					
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策				
				教員	児童生徒	保護者							
小松市共通 重点項目	学校研究	③の項目の肯定的意見が90%を超える。	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	100.0			継続して取り組んできたことが定着してきた。教材研究のよさを実感できる授業実践があったのではないかな。	計画訪問に向けて、算数の教材研究の仕方を他教科に広げ、生かしていけるようにする。					
			② 研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100.0									
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100.0									
			集計										
			指導力の向上	③の項目の肯定的意見が80%を超える。	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	97.0			89.6		-7.4	今まで授業の中で図を使って、指示しながらなど、あたり前にやってきたことが子どもにも「考えを伝えるくふう」として価値づけられてきた。①の児童と教師の差は、主体的に課題に向かう姿について、教師の捉えと子どもの捉えにズレがあるためではないかな。	今までの取組を継続し、子どもの発表時の姿を認め、価値づけていく。そして、「1：肯定的回答」の数値向上をめざす。①については、主体的とはどういうことかを子どもと共有する。また、全体的にはできていないように見えても、それで満足せず、個々の見取りをしっかりとしていく。
					② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	90.9			90.0		-0.9		
	③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	84.8			88.1		3.3						
	④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	69.7			89.2		19.5						
	⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	87.9			92.7		4.8						
	⑥ 児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	93.9			93.8		-0.1						
	集計												
	学力の定着	学力調査	①について全職員で調査結果をもとに重点目標や課題を共通理解し、取り組みを進めていると感じている職員の割合が90%以上。	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	96.9			学力調査の分析をできる限り多くの職員で分担して取り組み、課題を全職員で共通理解することで、どの職員も課題を意識して授業に取り組んでいると思われる。単元テストではほとんどのクラスが平均点80点を超えている児童の割合が8割を超えているが、漢字・計算については90点を超えている児童の割合が8割を超えた学級は4学級にとどまっている。	繰り返し取り組むことにより定着が見込まれるところなので、朝のスキルタイムや昼の学習タイムでの漢字や計算の取組を徹底していく。家庭学習でも自分のめあてを設定させ、基礎基本の定着を意識させて取り組ませるようにしたい。				
				② 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	84.4								
				③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）	71.0								
				集計									
家庭学習				②基礎学力の向上や学習習慣の定着を意識しながら、家庭学習の評価・指導を行っていると感じている職員の割合が90%を超えている。	① 自分で計画を立てて勉強している。（3年以上）	92.0	86.7			72.8	-5.3	6月に家庭学習ステップアップ週間を実施するだけでなく、日常的に各担任は家庭学習の評価・指導に取り組んできた結果、②については、職員、保護者とも高い評価となっている。	
					② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	100.0				96.4			
	集計												